（別紙4）　　平成　29　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3392400028		
法人名	社会福祉法人　誠和		
事業所名	グループホームあじさい		
所在地	岡山県瀬戸内市牛窓町長浜1745-1		
自己評価作成日	平成29年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://ajisai-s.or.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利法人　高齢者・障がい者生活支援センター
所在地	岡山市北区津高628-1
訪問調査日	平成29年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者が安心して、落ち着いた生活ができるように、個人の生活リズム、プライバシーを尊重し、穏やかな生活を提供することで第2の我が家と感じて頂けるよう努めています。職員、利用者の和を大切にし、笑顔で優しい声掛けをモットーに、誠意をもって利用者に接するようにしています。利用者同士の関係づくりにも配慮し、共同生活を営む者同士の、助け合いの関係が出来るように援助しています。利用者、家族の交流の機会を設け、気分転換が図れるように援助しています。生活の活性化へ向けレクレーションの充実にも取り組んでおり、認知症、身体機能の低下予防に繋がるように、利用者に合わせたリハビリの充実に務めています。また、季節感を感じてもらえるように年間行事計画をたて取り組んでいます。看護師との連携により最期まで安心して生活ができるよう医療連携を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

社会福祉法人誠和が運営する総合福祉施設の一角にあるグループホームです。法人メリットを活かし地域密着型サービスの拠点として開かれたグループホームの活動に取り組んでいます。入居者の今までの生活習慣を大切にしながら現状に即した支援に努め、安心して暮らせる様全職員で取り組んでいます。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を法人理念とは別途定め、掲示し、毎朝復唱。利用者の立場に立ち利用者を理解し、利用者にしあわせを感じて頂けるように、誠意を持って笑顔でやさしい声かけに努めています。	地域密着型サービスを理解し、法人理念を基に事業所理念を別途定めています。職員は、個々に合わせた具体的な対応を話し合い、理念を共有して実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居以前からの地域の方とのお付き合いが継続できるようにボランティアの受け入れ等配慮しています。地域行事（地元の運動会など）にも参加し、また敷地内にある地域交流スペースにくるボランティアの演芸等にも参加し、交流を図っています。	地域の行事を年次計画に組み込み参加できる行事には参加し、地域のボランティア活動の方々と触れ合うことにより昔を思い出すこともあり生活の継続に繋がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体として地域貢献に取り組み、地域への勉強会開催（交流スペースでの勉強会、地区サロン等への出張講演等）やOJTとして地域の事業所に対して事業取組の報告等開催しています。スタッフも地域の一員として、情報発信できるように取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実績、現状報告、現在取り組んでいること等の報告を写真やビデオなどで行い、理解を深めていただくようにしています。年に数回は、行事を同時に開催し、運営推進会議のメンバーからの意見をサービスに繋げるよう努めています。	家族の参加を促し行事と同時開催し、行政担当者、市議会議員、地域の役職者が集い地域に根差したホームとして運営推進会議での意見などサービスの向上に繋げています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム単独だけでなく、法人全体として市内の事業所や行政の集まるカフェへの参加や保健福祉担当者との情報交換・連携を行い、必要に応じ情報提供も行っています。	行政と協力して地域ボランティアの育成に努め、地域住民と施設のマッチングプラザを計画しています。また、介護相談員と情報交換会を行い、日頃から積極的に協力関係を築くように取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年度初めには人権や身体拘束等についての研修を開催しています。年間計画に沿って、またマスコミ記事などに取り上げられている時は随時振り返りの場を設けています。法人としてマニュアルを作成し、内部研修等にて意識統一を図っています。	内部研修で当該事業所だけでなく、併設する他施設の職員から意見を貰うなど、法人全体で身体拘束について取り組んでいます。又必要な時は、医師、看護師と原因を検討し、身体拘束のないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年度初めには高齢者虐待防止法についての研修を開催しています。年間計画に沿って、またマスコミ記事などに取り上げられている時は随時開催しています。内部研修で職員の意識を高め、防止に努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年度初めには人権、権利擁護、成年後見制度についての研修を開催している。年間計画に沿って、またマスコミ記事などに取り上げら得ている時は随時開催しています。内部研修で職員の意識を高め、防止に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時には、家族にも来館いただき、必ず懇切丁寧に契約書、重要事項説明書、サービス内容、個人情報保護法、ターミナル等についての説明を行い、理解に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の利用者や家族の声を職員が聞き取り、職員が改善提案し、職員相互に話し合い、改善意識を育てるようにしています。意見箱をも設置しています。	運営推進会議、家族会、面会時などに家族の思いを聞く様努めています。また、毎月の家族通信・法人全体のあじさい便りを配布し日頃の様子を伝えています。契約時には、外部機関へ意見・苦情を伝えられる場があることを説明しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人として、職員の努力が評価できるようにキャリアアップシステムを導入しています。毎年、職員各自が自主研修計画を立て振り返るように、目標を持って働けるようにしています。また、管理者は年に2回程度個人面談を実施し意見を聞く機会を設けています。	キャリアアップシステムを導入し、具体的に伝えることにより職員が目標を持って働ける様、環境づくりに努めています。また、年2回の個人面談、日々の業務の中で随時職員の意見や提案を聞く機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間を通じて、法人全体の内部研修、グループホーム内部研修等を計画し、希望に応じて参加できる環境を作っています。また、職員各自にあった外部研修に順次参加できるように配慮しています。運営会議にてスタッフの声を施設長・介護部長補佐よりあげるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の一人ひとりの目標に合わせ、年間を通じて法人全体研修や、、グループホーム内部研修等を計画し希望にて参加できる環境を作っています。また各自に合った外部研修に順次参加できるように配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では委員会や会議等で連携を取り、色々な情報交換を行っている。事業報告会を開催し、近隣施設への声かけを行っています。市内の研修会（カフェ等）にも参加し、取り組んでいます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、ご家族等からこれまでの生活についてお話を聴き、不安に思うことがあれば時間をかけて説明し、生活の中でご本人の意向を確認しながら不安を軽減できるように信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活の様子、介護上の困ったことなどを聴きながら、ご家族の不安、要望を聞き取ることで、できるだけ安心していただけるように配慮しています。家族通信の配布、面会時の様子説明等、要望を言いやすい関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を基に、必要なサービス提供ができるように、暫定介護計画を作成し、職員で共有、入居後は、利用者の様子を観ながら介護計画の修正を行なっています。状況によっては看護師の初回面談等状況に応じて対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力に応じて、できる部分については取り組んでいただけるように声かけ・見守り、必要に応じて職員が手伝うことで共同生活者という実感を感じていただけるように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流の場を、多く設けるようにしています。また、利用者とご家族が気軽に外食を計画できるように普段より居室担当者が、ご家族と連絡できる体制をつくり、ご家族と協力関係を保てるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のこれまでの関係が保てるような外出、面会を歓迎しています。またデイサービス利用をしていた方は、本館売店に買い物時等に会える機会を持ったり、施設内入居者同士の交流も図れるように努めています。	日常のコミュニケーションを大切にし、馴染みの人や場の把握に努めています。また、家族、友人、昔の繋がり等外からの情報を得て、今までの関係が途切れない様、支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格など把握し、弱い立場の利用者にもいたわりの目を向けていただけるように働きかけています。状況に応じて、席替え等をして、より良く利用者間の関係が保てるように努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、関係機関とも連絡調整をしながら、利用者及び家族の生活の継続の支援をしています。また、必要に応じ相談に乗り、対応ができるように努めています。法人メリットを活かし、必要に応じ関係機関との協力も図っています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の行動や表情から　利用者の気持ちを汲み取ることで、利用者の思いを尊重し、個々の意向の把握に努めています。本人がこだわりをもっていることについて、汲み取るようにし、本人が判断できない場合には、家族へも意見をききながら把握しています。	日々の関わりの中で、入居者とゆったりと向き合い、本人の気持ちに寄り沿う様努めています。また、職員の思い込みで判断しない様、ミーティングで皆で意見を出し合い、本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から聞き取りを行い、これまでの経過を把握するようにしています。回想法や面会者等から得た情報も役立っています。また、できる限り住み慣れた自宅等を訪問し環境に配慮するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活スタイルを尊重しています。利用者のその日の状態に合った声かけができるように小さい変化にも注意を払っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の気づき等を基に、定期的・計画的なカンファレンスで、利用者の立場に立ち検討しています。できる限りご家族にカンファレンスに参加してもらえるように連絡を取り、ご意見、意向を介護計画に反映しています。（参加困難な場合にも確認をしています）	家族が介護計画に参加出来る様、面会時に合わせて機会を設けています。その際、家族の役割についても伝え、関係者全員で取り組める様努めています。面会が難しい方には、毎月電話で状況報告をし、意見を聞くように努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康管理表など、情報共有しやすい工夫をしています。他に気づきシート、モニタリングシートに日頃の気づきを記入することで、介護計画の見直しに役立てています。毎月ケアプランのモニタリングに努めるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの現状に合わせて柔軟な支援を心がけています。受診などご家族の状況に合わせて、移送サービスを利用できるように支援しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、地域の面会者等の関わりが継続でき、利用者の生活に楽しみができるように配慮しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅生活のかかりつけ医を継続できるように支援しています。受診の場合は、職員が同行し日頃の様子、体調の変化を伝えている。利用者によっては、週1回・隔週の往診があり、必要に応じて、歯科医の往診もしてもらっています。	希望に沿いながら適切な医療が受けられる様支援しています。家族が通院介助をする事もあり、日頃から情報共有に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェック等の健康管理で早期発見できるように配慮しています。法人内他部署の2名の看護職員と連携をとり、いつでも相談できるようにし、早期対応に繋げています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日頃の生活状況、健康状態等を情報提供しています。また、入院の状況に合わせて、診療計画を示していただくことで、できるだけ早期退院できるように取り組んでいます。。入院時には看護師にて病院との連絡調整を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より面会時に、現状を説明している、重度化に向け、運営推進会議、家族会などで情報提供し心の準備、意向を聞く機会を作っています。主治医と連携し、支援しています。また、入居時に医療連携について話をし、終末期の在り方について同意を得るようにしています。	契約時に事業所の指針を伝え、状況の変化に応じて関係者と話し合い、情報の共有に努めています。また、定期的に看護師を中心に内部研修を行い、知識・技術の習得に努めています。	今後も職員の方向性の統一・共有に努め、知識や技術を磨き、体制作りを続けていかれることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習を受け、救急法・AEDの対応を身につけるようにしています。緊急時・事故発生時マニュアルの周知徹底、見直しを、定期的に職員会議や内部研修等で話し合っています。緊急時連絡方法についても見直しを図り、対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、日中及び夜間を想定した避難訓練をしています。毎月の防災自主点検をや消火器訓練、年2回の防災教育、緊急連絡網訓練など法人全体でも各種訓練行うことで、職員の防災に対する意識を高めるようにしています。マニュアルは、定期的に見直しを行っています。	同法人の特別養護老人ホームが地域の避難指定場所になっており、台風時地域の方が避難しています。法人全体で東南海地震を想定し年1回合同訓練をするだけでなく、事業所独自で昼夜問わず様々な発生時間を想定し訓練に努めています。	災害対策はこれで良いという事は無いので、変化する状況に合わせ、今後も行政と協力して対応を続けていかれる事を期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の性格、生活スタイルを尊重し、人生の先輩として尊重した失礼のないやさしい声かけをするように心がけています。	内部研修を行い、日々の振り返りをすることにより馴れ合いにならない様努め、職員の意識改革に繋がっています。一人ひとりの人格を尊重し、信頼関係の中で個々に合った接遇に努めています。	今後も内部研修を続け、馴れ合いにならない様、入居者の尊重とプライバシー確保を心掛け、その人らしい日々の支援に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のさりげない声かけの中に、自己決定に繋ぐことができるような声かけやききとりを目指しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースやこだわりを尊重し、穏やかに過ごしていただけるように、その時々に合った支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃は、整容、散髪等気持ちよく過ごせるように支援しています。機会に応じて、お化粧、ネイル等も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の利用者の様子に配慮しながら、無理のない範囲で声かけし、準備や片付けなどをしていただいています。また、行事に合わせた調理の工夫も行い、食事をつくり食べていただけるようBGM等を工夫し、楽しい時間になるように配慮しています。	職員が栄養士と相談して、毎日のメニューを決め手作りしています。畑で収穫した野菜を食事やおやつに取り入れ、季節感を出し、食事が楽しめる様努めています。また、入居者の力を引き出せる場と捉え、無理のない範囲で一緒に準備、片付けをしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みを取り入れた献立、個々に合わせ食事摂取がスムーズに進むように、量・形状など配慮しています。水分、食事摂取量のチェックを行い把握に努めています。又必要に応じて栄養補助食を摂ってもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせ口腔ケアを行っています。必要に応じて歯科医に相談し、指導してもらっています。嚥下機能のリハビリも兼ねて口腔体操を取り入れています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握し、さりげない声かけで、できるだけ失敗がないように援助しています。	日中、夜間ともに、個々に合った支援をしています。毎月モニタリングを行いながら、変化があればその都度会議で話し合い自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩、ラジオ体操、リハビリ体操などできるだけ身体を動かす機会を設けています。便秘気味の方の水分摂取、食材等に気をつけています。排便時困難な方には、腹部マッサージを行ったり、必要に応じて看護職員や主治医に相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の体調、精神状態に合わせ、負担にならないように配慮しています。入浴剤を入れ、香を楽しむこともでき、肌の乾燥の予防策にもなっています。石鹸も肌に優しい物を使用するようにしています。	一人ひとりの気持ちに沿える様支援しています。入浴拒否の方に対しては、要因を考え、利用者と話し合いながら時間帯を変えるなど柔軟な対応に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活パターンを尊重し、習慣、健康状態に合わせて必要な休息がとれるように配慮しています。利用者の状態に合わせ、足浴を行い安眠に繋げています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より処方の変更時には、薬の説明を受け、書面で職員が理解できるようにしています。症状の変化については、随時主治医に報告・相談を行っています。服薬介助には、誤薬がないように、確実な服用を確認するようにしています。看護師からの情報提供も役立てるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの楽しみがグループホームの生活の中で継続、活かせるように一人ひとりを把握し、こだわりや特技等を活かした支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフの配置状況にもよりますが、散歩や外出は、よくできています。墓参りなど個々の意向に沿ったものは、家族の協力を仰ぎ、カラオケなどスタッフの対応で行えるものは対応しています。普段からご本人の希望を把握するように努めています。	日々、一人ひとりの状態に合わせた外出支援に努めています。車でドライブ、買い物、外食等楽しんでいます。外出の難しい方は、体調を見ながら車椅子で外気浴するなど五感刺激により生活に潤いが感じられる様支援しています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の状態により自己管理してもらうこともできますが、自己管理ができない利用者については、法人での夏祭り、個人の買い物時などお金を持っていただけるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望にそってご家族への電話の取り次ぎは行っています。親族、友人からのハガキ等が来た時は、返事を出せるように声掛けを行うなど支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を出せるように配慮しています。リビングにソファー、和室にこたつを置き、利用者それぞれに思い思いの場所で過ごせるように配置にも工夫しています。日にちが解るようにカレンダーを手作りしています。	共用空間づくりは心身の活力を引き出し、自立支援に繋がる様心がけ、生活感、季節感を取り入れながら心地よく過ごせる様工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にもウッドデッキ等、他利用者と離れても過ごせるように、利用者個々の状態で選ぶことができるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、ご本人とご家族で相談し、使い慣れた愛着のある家具などを置いています。カーテンは、ご本人・ご家族の好みの物を持ってきていただいています。居室も自宅で布団の方には、畳を引き、ベッドを撤去して環境整備しています。	使い慣れたものや仏壇などで居室づくりをし、危険がない限り、本人・家族の思いに沿った部屋作りになっています。今までの生活習慣を大切にした暮らしが窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの環境で手すり等を使ってできるだけ、安全に生活できるように配慮しています。利用者一人ひとりの状態に合わせてシルバーカー、車椅子などを使用しています。		